

総合的な学習の時間の改善①

－SWOT分析による単元の見直しの進め方－

「新学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」には、総合的な学習の時間に関する校内研修の必要性について、次のような記述がある。

総合的な学習の時間を充実させ、その目標を達成する鍵を握るのは、指導する教師の指導計画の作成と運用の能力、そして授業での指導力や評価力などである。さらに、地域や学校、児童(生徒)の実態に応じて、特色ある学習活動を生み出していく構想力も必要である。また、総合的な学習の時間は、教師がチームを組んで指導に当たることによって、児童(生徒)の多様な学習活動に対応できることから、教職員全体の指導力向上を図る必要もある。したがって、すべての学校で年間の職員研修計画の中に、総合的な学習の時間のための校内研修を確実に位置付けることが極めて重要になる。

また、研修の内容の一つとして、「総合的な学習の時間の目標、内容、育てようとする資質や能力及び態度の設定について」があげられ、その方法として、「指導計画作成や教材作りの演習、テーマに基づくワークショップなど」をあげている。

そこで、その研修の進め方の一例として、SWOT分析による単元の見直しの進め方を紹介する。

SWOT分析とは

SWOT分析とは、組織マネジメントのマーケティング手法である。

この分析で検討した自校の内部環境の「強み」と「弱み」、外部環境の「支援的要因」と「阻害的要因」とを組み合わせていくつかのパターンをつくることで、次のような効果が得られる。

- ① 自校の外部環境の「支援的要因」と内部環境の「強み」を活用して、我が校ならではの特色ある活動や取組が可能となる。
- ② 自校の内部環境の「弱み」と外部環境の「阻害的要因」とを克服する問題解決策を考えることも可能となる。

分析の進め方

- 1 単元の学習活動と関連が深いと考えられる内部環境要因、外部環境要因を選び出し、教育活動に対してどのような作用がありそうかを予測する(様式1, 様式2)。
【内部環境要因の例】
児童生徒、教職員、施設、設備、予算、校務分掌組織、教育活動の状況、学校の校風や伝統など
【外部環境要因の例】
地域の歴史や文化、地域の自然・風土、産業、保護者の状況、地域住民、関係機関、地域社会の状況など
- 2 関わりが深いと考える環境要因が「総合的な学習の時間」にどのように生かせようかについて、様式1, 様式2を基に見通しを立てる(様式3, 様式4)。
- 3 分析した要因をまとめ、新たな単元の構想や今ある単元の見直しに活用する(様式5)。
 - +に働く要因をどう生かすか。
 - -に働く要因をどう補うか。

(様式1) 内部環境要因の分析 【記入例】

【関わりが深いと考える内部環境要因】 [児童 (生徒)] 【その環境要因の客観的な特徴や事実】 <ul style="list-style-type: none">・ 開放的で明るい。・ 興味、関心があることに対しては、積極的に取り組む。・ 社会的なモラル、規範意識に乏しい面がある。・ 学力の差が大きく、特に、基本的な用語の定着、調べ学習の進め方などに課題が多い。・ 上級生と下級生の仲がよい。	
【強みとして働く場合や場面 (+)】 <ul style="list-style-type: none">・ 学習意欲を高める工夫をすれば、大きな学習効果が期待できる。また、多少の障害にひるむことなく、集団で協力して問題解決に取り組ませることも期待できる。・ 適切なリーダー養成をすることで、児童の持ち味を生かしたグループ活動が期待できる。・ 研究発表会等の形で、先輩の活動のようすを見聞きする機会を作ることで、よい伝統を築いていくことが期待できる。	【弱みとして働く場合や場面 (-)】 <ul style="list-style-type: none">・ 学習意欲や目的意識を高めることができなければ、教師が予測しない行動に走り、学習の目的が達成できないおそれがある。・ 学校外で活動をする際に、地域住民に迷惑をかけたり、学校への不信感を招いたりするおそれがある。・ 学習への意欲や目的をもてなかったり、学習の進め方が分からなかったりして、授業への不満が増幅するおそれがある。・ 悪しき伝統を受け入れやすい。

(様式2) 外部環境要因の分析 【記入例】

【関わりが深いと考える外部環境要因】 [高齢者クラブ] 【その環境要因の客観的な特徴や事実】 <ul style="list-style-type: none">・ しっかりした組織を構成し、計画的、継続的な活動が行われている。・ 校区文化祭をはじめとする地域行事で、地域の伝統芸能を積極的に発表している。ゲートボールでは、地区大会、県大会への出場権を何回も獲得している。・ 本校卒業生、児童の祖父母が多く、学校教育活動への関心が高い。	
【支援的に働く場合や場面 (+)】 <ul style="list-style-type: none">・ ゲストティーチャーとして招いた場合は、熱心に指導して下さることが期待できる。また、学校の教育活動について、地域社会で肯定的に紹介してもらえることも期待できる。・ 伝統芸能をはじめ、地域の風土や歴史、文化などについて多様な情報を提供してもらえることが期待できる。・ 学校の教育活動全般に対して、理解と協力を得るきっかけづくりが期待できる。	【阻害的に働く場合や場面 (-)】 <ul style="list-style-type: none">・ 高齢者クラブ独自の行事が多いため、学校の計画を調整したり変更したりしなければならぬ場合が予測される。・ 熱心さの余り、計画以上の時間数を必要としたり、放課後や休日に指導したいとの申し出が出てきたりすることが予測される。・ 学校行事の内容や運営の方法などに対して、個人的な見解の申し出が予測される。

(様式3) 内部環境要因の活用方策 【記入例】

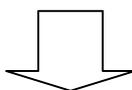
【自校の内部環境を分析して見えてきたもの】 <ul style="list-style-type: none">個性の強い児童が多い。先生方の学習指導，生徒指導面での危機感が高く，結束が強い。整備された施設，設備の有効活用が十分でない面がある。	
【自校の内部環境の強み（+）と弱み（-）】	
<ul style="list-style-type: none">児童の個性を生かした活動の場を設定できれば，大きな教育効果が期待できる。教科，少年団活動など，先生方の専門性を生かしながら，学年全員で指導に当たる体制が組める。テレビ会議システムを使うことで，他校との交流や情報の共有が可能となる。	<ul style="list-style-type: none">児童のニーズをそのまま生かすと，指導体制や活動の場所に不足が生じかねない。児童のニーズと先生方の持ち味とが合わない場合，児童の満足感が得にくいことが予測される。先生方が操作に不慣れだと，効率的に授業が進められない。
【「総合的な学習の時間」の担当として考える改善策】 <ul style="list-style-type: none">○ 強みを生かすために<ul style="list-style-type: none">児童の個性や先生方の持ち味を再度把握して，多様な学習内容や方法を検討する。○ 弱みを克服するために<ul style="list-style-type: none">児童が学習内容や方法に見通しが持てるよう，オリエンテーションを充実させる。	

(様式4) 外部環境要因の分析 【記入例】

【自校の外部環境を分析して見えてきたもの】 <ul style="list-style-type: none">高齢者クラブをはじめ，地域の活動が盛んである。地域住民の大半が本校卒業生であり，学校教育活動への関心が高い。学校以外の教育機関としては町立図書館しかない。	
【自校の外部環境の支援的要因（+）と阻害的要因（-）】	
<ul style="list-style-type: none">伝統芸能等の文化や郷土の歴史などについて，地域社会の協力が得やすい。体験活動をはじめ教育活動全般について，多様な協力体制が期待できる。校外での調べ学習の場は，自ずと町立図書館中心となる。町立図書館の機能をフルに活用できる。	<ul style="list-style-type: none">文化祭等で，高齢者クラブが多く発表すると，児童の発表時間が制約される場合もある。地域行事との兼ね合いで学校の教育活動を調整する必要も生じる。体験的な調べ学習ではなく，図書やインターネットを中心とした調べ学習に偏りやすい。
【「総合的な学習の時間」の担当として考える改善策】 <ul style="list-style-type: none">○ 支援的要因を生かすために<ul style="list-style-type: none">事前の説明，打合せを入念に行いながら，可能な限り地域人材の活用を図る。○ 阻害的要因を克服するために<ul style="list-style-type: none">地域人材を有効に活用し，持ち味を生かした多様な体験の場を設定する。	

(様式5) 単元構想の見通し 【記入例】

<p>【単元名】「ふれ合い，学ぼう，郷土の先輩に」</p> <p>【めざす児童生徒の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知りたい」，「できるようになりたい」という自分の知的な欲求を満たすため，自らの意思で身近なところにいる高齢者を訪問し，コミュニケーションをとることができる。 <p>【設定したい学習場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の願いを実現するために，身近な高齢者を訪問する必要性を生徒が実感する場面。 いわゆる「お年寄りの知恵」と言えるようなより良い人生を送るための心掛けを，生徒が高齢者から直接教えてもらう場面。 高齢者から教えてもらった「知恵」を実践し，そのありがたさを実感できる場面。 	
<p>【自分の学校の内外環境の要因】</p>	
<p>(強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何事にも積極的な児童が多い。 明るく個性豊かな児童が多い。 学習指導，生徒指導への危機感が高く，先生方の結束が強い。 	<p>(弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の学力差が大きい。 時と場をわきまえた言動が難しい。 施設，設備の活用が十分できていない。
+	-
<p>(支援的要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動が盛んで，高齢者クラブや地域芸能伝承などの多様な分野に多くの人材がいる。 地域社会には卒業生が多く，学校教育への関心も高い。 	<p>(阻害的要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域行事との兼ね合いで，学校教育活動の期日決定へ影響が出る。 地域の教育機関としては，町立図書館しかなく，体験的な探究活動の場が限られる。
<p>【支援的要因や強みを生かすには】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容や方法について十分なオリエンテーションを行うと共に，児童のニーズや地域の人材情報を詳細に把握しておく。 地域人材との打合せを十分行い，持ち味を生かした活躍の場を工夫する。 	<p>【弱みを克服し阻害的要因を回避するには】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段から，各教科の授業，道徳の授業，学級活動，生徒会活動を一層充実させる。 日ごろから地域社会の代表者とのコミュニケーションを図っておく。 体験活動の場として，学校内の施設や地域の施設を有効に活用する。



単元の指導計画，毎時間の授業展開の改善に役立つ。